

富山県の眼科医をつなぐ情報マガジン

vol.2

EYE LiNK

FREE PAPER

対談

遠藤俊郎 × 林 篤志

富山大学 学長

富山大学医学薬学研究部
眼科学講座 教授

future's eye 三原 美晴

富山大学附属病院眼科／斜視・弱視・小児外来

未来を見つめて。



医療再編の核として、大学病院の役割がより重要性を増していく。

富山大学附属病院は、富山大学の二員として教育、研究、診療を担うとともに、病院の経営と運営にもあたるきわめて重要な存在である。平成23年4月から新しく富山大学の学長に就任した遠藤俊郎氏は、3月まで富山大学附属病院の病院長を務めた。新学長としてこれからの大学病院にどのようなことを期待するか。富山大学附属病院眼科の林篤志教授がお聞きした。

大学病院が果たすべき役割とは？

林●学長は病院長時代に病院のいろんな改革に取り組んでこられました。振り返ってとくにどんなことに一番、心血を注いだという印象ですか？

遠藤●強いてあげれば現場の研修医や若い医師の声を傾けるようにしたことでしょうか。私は富山大学病院（当時富山医科薬科大学）の設立時から医師として働いてきましたからいい面、悪い面含めて見えました。また私自身は脳神経外科が専門ですから、手術になれば現場はチームで動きますし、医師同士や看護師、コメディカルの存在は何より大切だと認識しています。だから彼らが仕事しやすい環境をどうつくるか、それにはまず彼らの意見に耳を傾けようと思いました。

林●私は富山大学病院に着任して3年になりますが、病院の雰囲気明るくなつたという声をよく耳にします。外来患者さん、若手スタッフ、地域の先生方からそういう印象を聞くたびに、病院長の人柄とか、現状を良くしようというみなさんの思いが反映されているように感じます。風通しの良さが患者さんや働く人たちに伝わるんじゃないかと思います。

遠藤●大学病院のような大きな組織は、個々の立場や意見の違いを乗り越えて組織を潤滑に機能させていくことが重要で、それには現場からモノが言いやすい、発信しやすい環境をつくることです。結果的に、それが世界に発信できるキラリと光る実績をもち、地域医療にも貢献を果たし、特色ある富山大学病院を目指していく循環にもつながるように思います。大学

遠藤俊郎

富山大学 学長

<プロフィール>

東北大学医学部卒。1979年、富山医科薬科大学に着任。脳神経外科教授兼富山医科薬科大学附属病院副病院長として経営、運営に携わる。1999年、富山大学医学部教授に就任。2009年、富山大学附属病院病院長に就任。2011年4月から、富山大学学

林 篤志

富山大学医学薬学研究部
眼科学講座 教授





附属病院は現実の診療、研究、教育という役割に加え、病院の経営、運営にも携わるきわめて特殊な存在です。そこで病院長が本来なすべき役割と目標について、私は大きく二つに集約されると思ってきました。一つは、県内唯一の大学病院、特定機能病院として信頼できる医師を養成し、高度先進医療や臨床研究を推進する。同時に県の中核医療機関として患者さんに安全かつ良質な医療を提供し、地域医療を支えていくこと。二つ目は、病院の経営と運営です。単に収益の向上を目的とするわけではなく、大学の活動基盤を確保、充実するための戦略的な重要課題として大学病院の経営と運営があるということです。

「機能分化」によって医療が変わる

林●この4月から学長になられたわけですが、大学病院から大学本部に移られて、今後は大学病院に対してどのようなことを期待されますか？

遠藤●富山大学病院は大学組織の一つではありませんが、診療や研究、教育を行うことで社会と直結し、一方で150億円を超

える予算運用と約1200名の職員が働く組織として基本的に独立法人として動いています。ですから今後も、独立独歩で頑張っていただきたいという思いは変わりません。しかし大学病院は文部科学省の管轄下にありながら、医療機関としての施策は厚生労働省の影響を受ける、ある種の「ねじれ体制」という矛盾を抱えています。そのなかで患者さんのニーズに対応しながら、自らの技量と能力の向上を図り、後継者を育成していく義務を負う、難しい課題と向き合っている大変さも感じています。

林●医師不足で地域医療をけん引する役割も担いますから、私も含めて現場の先生方はたしかに過重労働です。私は富山に着任してから、地域の拠点病院や開業医さんとの連携を密にし、大学病院と地域の拠点病院、開業医さんとの役割を明確化しました。大学病院にしかできない高度で専門的な治療をお引き受けし、たとえば術後管理などを開業医さんをお願いするというように紹介、逆紹介を通じて顔の見える医療を展開しています。それによって開業医さんとの信頼関係がより深まり、情報交換や研究会、講演会などの交流も活発になった気がします。学長は「脳卒中」治療の連携システムに取り組まれたそうですね？

遠藤●そうなんです。地域医療が危機に立たされる要因の一つに、似たような診療分野や同規模の病院が競合する地域があります。富山県も例外ではありません。脳神経外科の領域は脳腫瘍から外傷まで多岐に及び、なかでも脳卒中は重症例

を中心に急性期患者の6割を占めます。2005年当時、県内各地で脳神経外科手術を行う施設があっても、実際には専門医を含めて常時3〜4人の体制が組めるところは半数もない。大半は専門医が1人か2人で、そのぶん過酷な労働を強いられる現実がありました。それをなんとかしようという人口15〜20万人に1か所、5人以上の医師が就労する基幹病院を設置し、症例と人材の集約化を図ったわけです。

世界に通用する研究者をめざす

林●計画から目標達成まで5年がかりだったそうですね。全国でもトップレベルの先端的脳卒中医療を24時間体制で提供できる体制が整ったとお聞きしています。

遠藤●病院間の機能分化に向けた人材と施設整備が実行できたことで医師の勤務状況は大幅に緩和できましたし、常勤医で十分な診療体制が維持できています。脳卒中中の入院患者数や手術・血管内治療件数や診療内容は全国トップレベルに近づいています。

林●少子高齢化が進んでいけばますます病院経営は厳しくなるでしょうし、今後さらに病院間の統合や機能分化は避けられない状況になっていくとお考えですか？

遠藤●そう思います。富山だけではなく北陸全体で医療再編の動きは進んでいくでしょう。医療のレベルアップ、モデルチェンジを含めて統合、機能分化の時代になると思います。

林●大学病院と地域の拠点病院の役割

をどういうふうに明確化し、共存していくかがますます重要になっていきますね。

遠藤●おっしゃる通りです。私は林先生が開業医さんとの医療連携を通じてそれぞれの役割と機能を明確化したことで県内眼科医療の底上げにつながり、大学病院はより高度で専門性の高い医療に特化していくきっかけになると感じています。二人の医師である程度、治療が完結できる診療科と、私たち脳神経外科のようなチーム医療や病院間の機能分化で医療連携するのはいささか事情は異なりますが、大学病院と各拠点病院との役割と機能分化を進め、医療を集約化していく流れはより重要になるでしょう。

林●大学病院は研究者や地域医療の中で後継者を育て個別のテーマで研究を深め、技を磨いていく。その中で世界に発信できる研究実績を積み上げていく。富山大学はそういう環境や可能性は十分あると思います。

遠藤●同感です。病院だけではなく、大学全体でポテンシャルをもっていると思います。林●学長にはぜひ富山大学に新しい風を送り込んでいただき、富山大学も発展させて頂きたいと思います。E



県下有数の「斜視・弱視」専門外来

斜視とは、片方の目が正しい方向を向いていても、もう片方の目が内側や外側、または上下に向いている状態を言う。わたしたちがふだんモノを見る時、両眼の眼球を動かす筋肉が微妙に動いて、見たいものに視線を合わせるように調節してくれる。この眼球を動かす筋肉が何らかの要因で異常をきたしたり、神経支配に異常があったりすると斜視が起こる。強い遠視や近視、片眼の視力不良などにより眼筋の微妙なバランスが崩れて斜視になる場合もある。

富山大学附属病院「斜視・弱視・小児眼科」外来の三原美晴医師は、眼科外来で斜視・弱視・小児眼科分野の治療を担当する。富山大学附属病院に専門外来ができたのは3年ほど前。それまでは、斜視や弱視専門の外来が県下になかったこともあって、患者の実態把握や治療は進んでいないのが現状だった。

斜視の原因はさまざまで、子どもの時期に発症し、なおかつ先天性のものは原因がわからない場合が多いが、麻痺性斜視のようにはっきりしているものもある。

「たとえば、甲状腺に関連する甲状腺眼症、脳神経麻痺などによって起こる斜視です。とくに脳神経麻痺からくる場合は、眼の筋肉を動かす脳神経が3本あってこれが脳腫瘍や頭部外傷、脳梗塞などで神経麻痺をきたし、斜視につながり

DEPARTMENT OF
OPHTHALMOLOGY,
UNIVERSITY OF TOYAMA.



future's eye

全身麻酔や術後管理など、 先端医療で 斜視弱視を改善する。



眼科のなかで乳幼時期などに比較的に見られる斜視・弱視は、小児眼科の代表的な疾患のひとつとされる。しかし近年は乳幼児だけではなく、成人してから斜視の治療を行うケースも目立っており、患者数は増える傾向にあるようだ。斜視・弱視・小児眼科の専門外来をもつ富山大学附属病院の眼科に、治療の現状などについて聞いた。

富山大学附属病院眼科／斜視・弱視・小児外来

三原 美晴

ます。これまで斜視というと、子どものころに発症して成人になるまでこのまま来たから治療はしなくてもいいと言われていた人が多かったんです。ところが、人から目つきが変だと言われて落ち込んだり、もともと斜視じゃなかった人が脳神経麻痺などで発症し、見た目ではわかりにくいわずかな斜視でも、たとえば運転するとセンターラインが2本見えるといった不便を感じたり、QOLを悪くすることがわかってきて、最近では手術などによる治療も進んできています」

手術と早期発見、早期治療

三原医師によると、富山大学附属病院の斜視・弱視外来を訪れる患者層は、子どもから70代まで実に幅広いという。検査や手術件数も増えていて、患者のQOLの改善が進んできている。しかし斜視は種類、性質、年齢、全身状態などによって個人差があり、それによって治療法を見極める必要がある。

弱視の場合も同様で、原因が何であるかを詳しく検査した上で一人ひとりに最適な治療を行うのが基本だ。弱視は、視力の発達が不十分で、眼鏡などで矯正しても視力が回復しない状態を言う。その原因は、強い近視・遠視・乱視があるといった屈折異常、斜視、不同視や先天白内障などさまざまなものが、視機能の発達期である8歳未満の子どもに多く見られるという。

視力は、一般的に生後2〜3ヶ月から8歳までで発達が終了するといわれており、そのため三原医師は「とくに3歳児健診や就学時健診などでの早期発見、早期治療が大切」だと強調する。

大学病院の強みを生かした医療

斜視や弱視の治療は一般の病院でももちろん可能だが、症例数や設備環境、医療連携、術後の管理などを考えると、患者は大学病院を紹介されるケースが圧倒的に多い。

「手術する場合、子どもは全身麻酔になりますからきちんと対応できる専門医がいるところが安心だと思います。小さな子どもを診るのはとても根気が必要です。大人の場合でも、とくに麻痺性斜視の場合は、上下、水平、回旋斜視を合併しているため、個々の筋肉の作用のベクトルに配慮した手術プランと管理が必要です。検査体制も重要です。視力検査や屈折検査、斜視検査など患者さん一人ひとりにあった検査を入念にすることでその人の状態に応じた治療ができますし、そういうことを含めて対応するとなるとやはり大学病院が安心できるのではないのでしょうか」

富山大学附属病院の眼科では、全身疾患のある小児は小児科と連携し、麻痺性斜視のような症例については、脳神経外科や神経内科とも連携し、術後コミュニケーションを行うなど大学病院な



三原 美晴

みはら・みはる

石川県立羽咋高等学校卒業
2002年 富山医科薬科大学医学部医学科卒業
同大学眼科学入局
2003年 済生会富山病院
2004年 富山大学附属病院助手
2007年 富山大学附属病院眼科
斜視・弱視外来担当

【資格・所属学会】
日本眼科学会専門医
日本眼科学会・日本眼科手術学会・
日本弱視斜視学会・日本小児眼科学会

【著書】 チャイルドヘルス平成22年6月号
小児眼科「屈折異常」



らではの強み、環境をいかした治療に取り組んでいる。

斜視そのものは直接、失明につながるものではないが「人と目を見て話すときに困るから治したい」という患者は少なくない。三原医師は「患者さんは潜在的にまだまだ多いと思う。悩んでいる患者さんがいたらぜひ専門外来へ」と呼びかけている。E



森田眼科医院

〒939-1561 南砺市福野1527
TEL.0763-22-4858



わがまちの② 眼科を訪ねて——

日帰り手術可能な設備を完備

平 成23年4月1日より森田眼科医
院勤務（私はB会員なので・・・）
になりました。ご存知の通り私の父も
眼科医ですが、昨春秋に築約35年の木
造旧医院を解体し鉄骨造の新医院をリ
ニューアルオープンしました。

新医院では診察室や検査室のスペー
スも大幅に拡張し、特に日帰り手術を
行える設備を整えました。私の前勤務
先である厚生連高岡病院で行っていた
大部分の診療や手術が行えるように
OCT（NIDEK RS-3000）を
はじめ、ライカ社の手術顕微鏡M844
（衝動買いで天吊りにしてしまいまし
た）、白内障・硝子体手術装置はNID
EK社のFortas CV30000
を導入し、白内障手術の他に、北陸では
あまり例のない無床施設での日帰り硝
子体手術を私自身が執刀して行います。

もちろんPVRなど手術時間の長く
なりそうな症例や、全身麻酔が望まし
い症例などは近隣病院の先生方に御紹
介させていただきたいと考えておりま
すので、よろしくお願い申し上げます。

また加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞
症、糖尿病網膜症に対する抗VEGF
治療も行いたいと考えています。

南砺市の皆さんを元気に

「」南砺市は人口5万5千人です
が、そのうち65歳以上の高齢者が

1万7千人と、高
齢者が30%を占め
る超高齢化社会で
す（日本の平均は
約20%です）。以前
に田中幹夫南砺市
長とお話をする機
会があり、南砺市はみんな100歳に
なっても元気でいられる街にしたいと
いう『南砺市、みんな元気な100歳
計画』的なお考えがあると伺いました。
私はそれは大変素晴らしいことだと共
感し、是非、そのお手伝いをしたいと
思っていました。

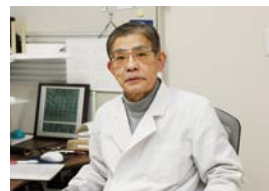
私に提供できる医療の全てをこの南
砺市から患者様に提供していきたいと
思っています。皆様には今後とも御指
導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し
上げます。

院長 森田 恒史

もりた・こうじ

南砺市出身

H10年 金沢医科大学医学部卒
H10年 金沢大学眼科入局
H11年 富山赤十字病院
H14年 金沢大学医学部附属病院
H15年 公立井波総合病院
(現南砺市民病院)
H17年 厚生連高岡病院眼科医長
H20年 厚生連高岡病院眼科診療部長
H23年 森田眼科医院



父・森田嘉樹氏



PROFILE

真生会富山病院
植田 芳樹

うえた・としき

S56年、滋賀県大津市生まれ。
H12年4月 大阪大学医学部入学
H18年3月 大阪大学医学部卒業
H18年4月 市立堺病院 初期研修
H20年3月 市立堺病院 初期研修終了
H20年4月 真生会富山病院 常勤医
H20年9月 富山大学附属病院 眼科に1年間研修
H21年9月 真生会富山病院 常勤医

ミライの眼科医

富山県内で明日の眼科医を目指して日夜がんばっている研修医のみなさんを紹介していきます。

『眼科的なことに限らず、どんな症状にも対応できることが目標。』

眼科を志した理由…学生時代、目が見えるようになり、喜ばれる患者さんの顔が大変印象に残っていました。自分の手術や治療によってこんな笑顔をしてもらえたときの満足感はどれほどだろう、そこにやりがいを感じて志しました。



眼科医をやっていて良かったと思う事…「先生、見えるようになりました」と自分の治療で、患者さんが喜びを語って下さるときです。たとえ見えるようにならない疾患でも、ロービジョンケアなどの支援や、わかりやすい説明ができて、「先生にお会いできてよかった」と言ってくるときも、涙が出るほど感動します。

今後目指す所は（目標など）…眼科的なことに限らず、「目の前にいる患者さんの、どんな症状にも対応できる」こと、そのために、幅広い知識、的確な診断、わかりやすい説明、正確な治療、適切な紹介が出来る力を身につけることが目標です。そのため、まず専門医をとるまでは、さまざまな分野に興味を持ち、勉強していきたいと思っています。

患者さんに対して日頃どのように接しているか…短い外来時間の中で「この先生に診てもらってよかった」と満足して頂けるよう、わかりやすい説明、診察室に入ってから待たせしめた「退室される際の「お大事になさってください」の言葉」を心がけています。

今特に頑張っていること…昨年は白内障手術を身につけることが目標でした。今年は、手術の幅を広げること、鑑別診断の能力を向上させることを目標にがんばっています。そのために、1日1つ疾患を勉強する、週に1つ英語の論文を読むことを心がけています。急げなくても多いですが、あと、NHKの英会話（リトルチャロウ）で密かに英語も特訓中です。



金子敏行

南星金子眼科
クリニック
富山県高岡市

わたしの
オススメ。

Recommendation!

四川家庭料理

【一期一会】

氷見市上田子 1780-11
tel.0766-91-8108
<http://www1.cnh.ne.jp/oku-mura/>



本格的な四川料理を楽しめるお店です。
女主人の奥村さん(中国出身)が一人で予約客一組だけに料理を出すスタイルで、当然完全予約制です。4人以上で3日前までに予約、1日1組なので埋まっていれば断られる、ということになります。人数が揃わないと行けないので、以前は忘年会などで使っていました。ここ1、2年は子供たちも辛いものも平気になり、食べる量も大人並みになったので、家族で利用することが増えました。四川料理なら何でも、四川以外の中華もレパートリーなのですが、フカヒレ(上海)や北京ダック(北京)は出てきません。辛いのが苦手と言えはるように献立してくれると思いますが、せっかくだから辛さを楽しみに行きましょう。この日も、コーンスープ麻婆豆腐、水餃子など定番だけでも十分満足、魚の甘酢餡かけやカシューナッツと肉の炒め物で満腹、締めめの杏仁豆腐まで楽しめました。特別薬膳なわけではないですが、医食同源は基本にあり、季節に合わせて体にいい食材を選んでもあります。また、料理が無駄になるのは嫌なのでしょう、頼めばドギーバッグを喜んで許可してくれます。麻婆豆腐は白ごはん食べたい、だけど炒飯が出る予定でそっちも食べたい、たぶんコースの量は多めに感じる人が多いと思うので、料理によってはわざと多めに残して持ち帰って翌日自宅で楽しんでもいいかもしれません。

この記事を書くためにHPを探して訪ねてみると、なんとお店の紹介の中に10年ほど前の私の写真が。そういえば使いたいと言われた気もしますが、かなり前のことで覚えてなかった。初めて見たのでびっくりしました。



Information

富山眼科集談会・富山大学眼科臨床カンファレンス [富山国際会議場 (会議室203・204)]

- 第64回富山眼科集談会 2011年5月22日 13:00~16:30
講師/村上 晶 (順天堂大学 教授)
- 第92回富山大学眼科臨床カンファレンス 2011年9月23日 18:30~21:00
講師/小幡 博人 (自治医科大学 准教授)
- 第65回富山眼科集談会 2011年11月23日 13:00~16:30
講師/未定 (未定)
- 第93回富山大学眼科臨床カンファレンス 2012年1月14日 18:30~21:30
講師/外園 千恵 (京都府立医科大学 講師)

とやま眼科学術講演会 [ANAクラウンプラザホテル富山]

- 第13回とやま眼科学術講演会 2011年6月25日 18:00~21:00
講師/飯田 知弘 (福島県立医科大学 教授)、大橋 裕一 (愛媛大学 教授) <ノバルティス>
- 第14回とやま眼科学術講演会 2011年7月23日 18:00~21:00
講師/山田 昌和 (東京医療センター 部長)、瓶井 資弘 (大阪大学 准教授) <参天 MSD>

監修◎林 篤志 (富山大学医学部眼科学講座 教授)
編集◎EYE LINK編集委員会
協力◎富山県眼科医会/三和器械株式会社
印刷・発行◎株式会社 メディカルアート 〒921-8051 石川県金沢市黒田1-33 TEL.076-269-4366



人工眼の夢

私

が金沢大学眼科に入局したのは昭和39年ですからもう47年も前のことになります。昭和39年といえば東海道新幹線が開業し東京オリンピックが開かれた年であります。米村助教授(当時)のもとで眼の電気生理の研究をすることになり、初めてご挨拶に伺った時のことです。先生は開口一番、土田君「我々眼科医は何のために研究するか分かっているかい?」と質問され、返答に窮していると、「われわれの究極の目的は人工眼を作ることだよ」と言われました。夢のようなお話とその目標の高さに感動したことを覚えております。

最近の科学の進歩は著しく、理化学研究所のチームがサルの皮膚から iPS 細胞 (新型万能細胞) を作り網膜色素上皮細胞に変化させ、縦1mm、横2

土田眼科医院 院長
土田 豊さん



〒930-0062 富山市西町5-18 TEL.076-425-876

mmの細胞シートをサルの網膜の裏に移植し、約2か月後も異常はなく順調に定着しているという。今後1年間ほど観察し、拒絶反応や腫瘍化の有無などを詳しく解析、問題がなければ、加齢黄斑変性症の患者を対象に患者自身の iPS 細胞を使う世界初の臨床研究を始める予定だということです。京都大学の山中教授が世界で初めて皮膚の細胞から iPS 細胞の作製に成功されてまだ3年の間にここまで研究が進んだことに驚いております。

富山眼科集談会で不二門先生の人工網膜の開発のお話をお聞きしたところであり、夢とされていた「人工眼」が現実味を帯びて来た感じがします。加齢黄斑変性症や網膜色素変性症で苦しんでおられる患者さんに一日も早く救いの手が伸びる日が来るよう、若い眼科研究者の挑戦に期待しています。